

## ガーゼの体内遺残について

2018（平成30）年3月に本院にて実施した手術で使用したガーゼが60代男性患者さんの体内に残っていることが4月上旬、判明しました。患者さんにはお体にご負担を掛けましたこと、深くお詫び申し上げ、再発防止策を徹底してまいりたいと思います。

今回のガーゼ遺残は①ガーゼカウントを誤っていたこと②X線画像チェックの見落としが原因として考えられます。

再発防止策には①ガーゼカウントの誤りに対し（1）ガーゼをセット化して運用（2）手術器具をガーゼの紐部分に付けて体外に留めることを実施します。また②X線画像チェックに対しては（1）遺残確認のためのX線画像を複数人で実施（2）X線画像のコントラストを調整して画像を鮮明化（3）解像度の高い専用モニターで確認を速やかに実施してまいります。

県民の皆さまが安心して医療を受けられる環境づくりに誠心誠意をもって、取り組んでいく所存です。

平成30年5月10日

長崎大学病院長 増崎英明